

令和 8 年度 第 1 回公民館運営審議会資料

1. 報告事項

- (1) 令和 8 年度 芦屋川カレッジ及び大学院
- (2) 春の公民館講座の実施状況について
- (3) 夏の公民館講座の実施状況について
- (4) 公民館音楽会
- (5) 講演会・公開セミナー
- (6) 常設展示事業
- (7) 公民館ギャラリー
- (8) 夏休み子ども教室
- (9) にほんごがっきゅう
- (10) 兵庫県身体障害者社会学級事業

2. 協議事項

- (1) 令和 8 年度秋・冬の公民館講座の実施について
- (2) 講演会、公開セミナー
- (3) 公民館音楽会

1. 報告事項

(1) 令和8年度 芦屋川カレッジ及び大学院

芦屋川カレッジ第43期生及び聴講生、大学院19期生

内容	コース名	定員	受講生数		
			男	女	計
芦屋川カレッジ第43期		100	27	42	69
芦屋川カレッジ 聴講生	ウェルビーイングと 地域社会の未来	9	6	3	9
	阪神間の自然を学ぶ	30	12	18	30
	上方古典芸能の世界	50	15	38	53
	ことばの力	50	15	38	53
	セット講座	40	12	22	34
芦屋川カレッジ 大学院19期		100	38	62	100

芦屋川カレッジの学習プログラムの考え方

文部科学省や芦屋市が、シニアカレッジの設置・運営を通じて期待する主な目的は、人生100年時代において、高齢者が精神的に豊かな生活を送るため、専門的な講義による知的好奇心の充足にとどまらず、高齢社会において「支えられる側」から「社会を支える側」へとシフトしていくための学びを提供することです。そのため、健康で生きがいのある生活の実現、経済的自立、複雑・高度化する現代社会への適切な対処、社会参画による地域との絆構築など、多岐にわたる内容を学ぶことが求められています。

芦屋川カレッジは、文部科学省「長寿社会における生涯学習の在り方（素案）」および「第5次芦屋市総合計画後期基本計画」に則り、高齢社会における市民の主体的学習と社会参加を促進する事業であり、単なるカルチャーセンター的講座とは一線を画す生涯学習プログラムです。第43期のプログラムのリニューアルにあたっては、阪神間の各高齢者大学との比較分析、カレッジOBおよび現役受講生からの意見聴取も実施し、社会教育主事と事務局で検討を重ねました。

その結果、「学び」によって個人のウェルビーイングを高め、「文化」の理解を通じて地域の価値を再認識し、「協働」のプロセス（自主活動等）を経て地域社会の担い手を育成するという、本市の基本計画を凝縮したカリキュラム構成となっています。

カリキュラムは午前の必修コース（全員共通）と午後の選択コースで構成されています。

午前の必修コースは、市民としての生活基礎力と教養を体系的に習得する時間です。

①健康・生活基礎

・老いの心理学・健康長寿の秘訣・こころの健康と睡眠・リハビリ・資産運用

これからの人生を安心して過ごすための知識と実践的な力を養います。

② デジタル・現代社会対応

・サイバー攻撃と情報リテラシー・生成 AI を生涯学習の友に

急速に変化する社会の中で、自立して判断し活用する力を育てます。

③ 地域を知る（阪神間・芦屋）

・神戸の地理・歴史・芦屋川の近代化・阪神間モダニズム・景観・文学・阪神間の弥生時代など私たちの暮らす地域への理解と愛着を深めます。

④ 一般教養

・世界文化・日本文化・西洋美術・日本美術・宇宙論・音楽・植物・死生学 など

幅広い分野に触れ、知的好奇心を広げ、人生を豊かにする教養を育みます。死生学については第二、第三の人生設計を行う上で、「死をめぐる学び」も必要であることから、「長寿社会における生涯学習の在り方（素案）」で推奨されているテーマの一つです。

⑤ ウェルビーイング

年間を通じて「幸せとは何か」「よりよく生きるとは何か」を考えます。

学びを通じて、人と人とのつながりや地域との関わりを見つめ直します。

午後の選択コースでは、受講生の関心に応じて専門的に学びを深めます。

① 阪神間の自然

六甲山や大阪湾の成り立ち、森林、生態系、防災との関わりを学びます。

② 上方古典芸能の世界

歌舞伎・文楽・落語など、上方文化の魅力を体験的に学びます。最終回は国立文楽劇場で技芸員からの解説と、文楽鑑賞です。

③ ウェルビーイングと地域社会

幸福とまちづくりの関係を、国内外の事例から考えます。毎回4人程度にグループ分けし、講義の後、討論、発表、行動目標を自ら定めるなど初めてのゼミ形式の講座で、受講生から大変好評です。

④ ことばの力（日本語）

日本語の特性や敬語、文章表現を通して、伝える力を高めます。

また芦屋川カレッジは、講義を聴くだけの場ではありません。自主活動 ・見学会 ・同期会設立委員会など、仲間との交流を大切に学びを深めます。

「教養を高める」ステージから、「共に社会を創る人を育くむ」ステージへ。

今回の生涯学習の理念に基づくリニューアルは「学び・文化・協働」の3本柱を軸とし、文部科学省の検討会が目指す「社会を変えるための生涯学習」への転換を図るものです。

前回の公民館運営審議委員会会議録に記された主なご意見への対応・検討結果

1. 午前の講義ローカルな内容が多すぎる。アカデミックな内容が必要。

回答；前述の学習プログラムの考え方をもとに、自ら、芦屋や阪神間地域のまちの歴史を再発見し、その価値を認識し、次世代に継承するという考え方を基本としました。芦屋市第5次総合計画後期基本計画の「文化」では、地域の魅力を再発見し未来に活かすことを掲げています（文科省、他の自治体でも重点を置くテーマです）。歴史を科学的に紐解く「地域学」は、アカデミックな講座であり、地域の品格を維持するための知的インフラです。

受講生からは「街の成り立ち、人々の暮らし、時代とともに移り変わる文化など、どれも身近でありながら知らなかったことばかりで、新鮮な驚きの連続でした。知識として深まるにつれ、自分が長く暮らしてきた芦屋という町が、これまで以上に奥行きと温かみを持って感じられるようになりました」など多くの方から極めて高い評価を得ています。

更に今年度受講生のアンケート結果でも、カリキュラムの中で特に興味を惹かれたテーマとして、「地域を学ぶ」は87%の受講生が選んでいます。

2. 午後の選択講座は元の2コースが良い。4つからは選びにくい

回答；多コース化は、従来の教養講座から脱皮し、受講生の関心をより専門的な領域へと誘導し、地域の担い手を育成するための戦略的設計です。特に「ウェルビーイング」講座での少人数ゼミ形式の初めての試みは、文科省が推奨する「対話型学習」の具現化であり、単に「聴く」だけでなく「考える・対話する」場への質的転換を図ったものです。令和6年度、7年度と比較しても、カレッジ応募者が増加し、全体の聴講生応募者も増加したという事実が、この改編の正当性を証明しているのではないのでしょうか。

3. 昔好評だった講座は残っているのか。アンケートはなくなったのか。

回答；アンケートは毎年実施し、そのデータに基づきプログラムを「代謝（アップデート）」させています。好評であった講座の講師については、継続して招請している講座も一定数開講する一方で、新たなプログラムも開講しています。過去への固執はプログラムの硬直化を招き、現代的課題（ウェルビーイングやデジタル等）への対応を遅らせるリスクがあります。

例えば生成AI・京都大学名誉教授石田亨先生、死生学・神戸女学院学院長中野敬一先生、健康長寿・大阪大学大学院樺山舞先生、河井寛次郎記念館学芸員鷺珠江先生など新たな人気講座が生まれています。

4. 高島市長の講演などどうか

回答；学長の役割は、個別の授業（講演）を行うことではなく、市長の登壇は、市政のビジョンや教育哲学を語る場であり、「集客の道具（客寄せ）」として扱うのは、教育機関としてのカレッジの存在意義を損ない、人気に頼る集客は持続可能性がないと考えています。

市長には、授業を聴講いただき、SNSで発信し、応募者増に協力していただいています。

6月には芦屋川カレッジ入学式の写真とともに、以下のコメントを発信いただきました。「今年度リニューアルした総合計画。あらゆる施策を行う上で、『学び』『文化』『協働』を大切にしたいという方針を、芦屋のまちづくりの設計図に掲げました。そんな中で、重要な役割を果たすのが公民館です。公民館は、日々の暮らしに根ざした教育・学術・文化に関する

る様々な事業を行うことで、『住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する』ことを目的としています。つまり、幅広い世代の市民の方々が『学び』『文化』に出会い、『協働』を育む場、ということです。公民館の最も有名な取組の1つが『芦屋川カレッジ』。56歳以上を対象に毎週授業を行う、先輩世代のための大学です。」（閲覧数；約11,000人）

5. 複数年制にしてはどうか

回答；芦屋川カレッジ自体は1年制ですが、修了後は大学院や聴講生として、複数年の受講が可能です。公民館講座も生涯学習の機会を提供するものです。現在、受講生の約30%が就労されている状況を踏まえ、開講頻度の調整等を含めて受講しやすさの観点から今後の検討課題といたします。

6. 空きがあれば東灘区、西宮市からも募集してはどうか

回答；芦屋市の一般財源（市民の税金）で運営されているため、受益者を市民に限定することが行政運営の原則です。他市住民の受け入れは、市民の学習機会や税金の利用観点から慎重であるべきと考えます。

7. フレイル予防講座を希望

回答；学習計画表をご確認ください。樺山舞大阪大学大学院教授の「健康長寿の秘訣」にあります。フレイルとは、「加齢により心身が老い衰えた状態」を意味します。

8. 先端技術についてサイエンスで取り上げてはどうか

回答；森井昌克神戸大学名誉教授のサイバー攻撃、石田亨京都大学名誉教授の生成AI、田中孝明甲南大学教授の宇宙観測の最前線などを実施・計画しております。

9. 学友会からアドバイザーを出してはどうか

回答；学友会の皆様は貴重な協働のパートナーです。一方、教育プログラムの策定にあたっては、国や市の指針・社会情勢を客観的に分析・編成することが求められます。事務局としては、市民やOBの意見を幅広く参考にしつつ、過去の経験や個人的な嗜好に偏ることなく、客観的なエビデンスに基づき社会教育主事と事務局が専門的自律性を持って編成することが、公的機関の責務と考えます。

ご参考に42期生の修了後の芦屋川カレッジカリキュラムの感想は以下です。

1. 講義内容の多様性と魅力

多くの受講生が、身近な地域の歴史から壮大な宇宙論まで、多岐にわたるカリキュラムに深い関心を示しています。

幅広い分野の網羅：地理、歴史、文学から健康、科学、市政に至るまでバランスよく計画されており、どの科目も興味深いものであったと評価されています。

未知への知的刺激：本を読むのとは違う面白さがあり、学ぶほどに自分の無知を知ると同時に、新しい知識を得る楽しさを実感したという声があります。

日常を超えた視点：地元の歴史といった身近なテーマから、宇宙の神秘や科学の最前線といった壮大な世界までが同じ教室で語られる幅広さが、カレッジの大きな魅力として挙

げられています。

2. 特に印象に残った講義とテーマ

地域の歴史・文化：

「地域を学ぶ一歴史」：伊勢物語や考古学資料を通じた講義により、かつての芦屋の姿に思いを馳せる贅沢な時間となった。

「芦屋廃寺」：7世紀頃に法隆寺のような寺院があったことを知り、身近な景色の見え方が変わったという驚きが綴られています。

『ミーナの行進』～モダンでレトロな芦屋～：当時の風俗から登場人物を分析する講師の視点に感銘を受けた受講生がいます。

科学・教養：

「ビッグバン宇宙論」：星の観察だけではなく理論から導き出す手法に、目を見張る思いがしたと述べられています。

その他の人気テーマ：「神戸の地理・歴史」「金津山古墳」「講談、教科書が伝えない偉人の決断」などが、心から笑える、あるいは深い思い出に残る講義として挙げられました。

3. 学びによる変化と効果

講義を受けることで、受講生の日常生活や地域に対する意識にポジティブな変化が生まれています。

「見慣れた景色」の深化：50年暮らした町であっても、歴史や文化を学ぶことで、町がこれまで以上に奥行きと温かみを持って感じられるようになったと報告されています。

実生活への活用：講義で得た歴史や地理の詳細情報を踏まえて、実際に市内の遺跡や名所を巡る散策を楽しむなど、学びが新たな趣味の充実につながっています。

人生の充足感：一流の講師陣による情熱ある講義に触れることで、日々の生活に張りが出て、毎週の講義が待ち遠しくなったという感想が多く見られます。

大学院は、芦屋川カレッジ修了生のさらなる学習意欲に応える芦屋市独自の生涯学習プログラムです。カレッジが幅広い分野を学ぶのに対し、大学院では年間統一テーマのもと、各分野の第一人者や大学教授を招き、学際的かつ体系的に理解を深めます。令和8年度のテーマは「旅と世界の想像力—人生と旅の行方を探求する」。観光情報ではなく、歴史・文学・芸術・哲学・心理学など多角的視点から「旅」を考察し、受講生自身の体験と知識を結び付け、知的・精神的充実を図ります。令和7年度に応募多数となったことを踏まえ、公開講座を1回から3回へ拡充しました。創設時から続く自主係活動は、受講生の主体的運営を支え、仲間づくりと高齢者の社会参画を促進しています。

(2) 春の公民館講座の実施状況について

講座名	回数・日時	定員	応募者数	受講者数	延べ出席者数	全回出席者数
春の開講記念講座 「ドラマ・映画製作の舞台裏」	4月4日	90	79	79	1回のみ	1回のみ
田辺真人先生の『文化の歴史Part33』—芦屋の生活・文化史から・続編(中世の芦屋)—	全6回 4月16日, 5月21日, 6月18日, 7月16日, 8月20日, 9月17日	90	97	87	—	—
世界はニュースだけではわからない	全6回 4月25日, 5月23日, 6月20日, 7月18日, 8月22日, 9月26日	90	106	91	—	—
西洋美術史講座 「ドイツ美術の魅力」	全3回 4月2日, 5月7日, 6月18日	90	97	84	223	60
芦屋の歴史講座 「学芸員と探る芦屋の歴史」	全2回 4月24日, 5月29日	90	93	79	147	68
サイエンス講座 「量子力学の世界」	全2回 5月30日, 6月27日	90	103	83	151	65
芦屋市立病院公開講座 「ベッドサイドで学ぶ しあわせ学～今を大切に 生きるヒント～」	4月11日	90	53	53	1回のみ	1回のみ
芦屋市立病院公開講座 「胆のうの役割、病気について」	5月9日	90	68	68	1回のみ	1回のみ
芦屋市立病院公開講座 「脳卒中について」	6月13日	90	69	69	1回のみ	1回のみ

(3)夏の公民館講座の実施状況について

講座名	回数・日時	定員	応募者数	受講者数	延べ出席者数	全回出席者数
韓国社会講座 「知ってびっくり！おもしろ韓国 ―生活と文化を案内します」	全2回 7月9日, 7月23日	90	96	87	159	72
日本史講座 「日本仏教の歴史 ― 仏教伝来から国家仏教の形成まで」	全 2 回 8月28日, 9月25日	90	102	—	—	—
近現代文学講座 「関西文化に育まれた文学 ～近現代作家が描く歴史小説～」	全 2 回 8月27日, 9月10日	90	91	—	—	—
芦屋市立病院公開講座 「市立芦屋病院の紹介」	7月11日	90	50	50	1回のみ	1回のみ
芦屋市立病院公開講座 「心房細動について」	8月1日	90	75	75	1回のみ	1回のみ
芦屋市立病院公開講座 「骨粗鬆症と骨折について」	9月12日	90	—	—	1回のみ	1回のみ

(4) 公民館音楽会

講座名	回数・日時	定員	応募者数	受講者数
「風薫るジャズの午後」 柏谷淳 (サクソ)、杉山悟史 (ピアノ)	全1回 4月25日	100	140	110
「令和7年度兵庫県文化賞受賞記念 北浦洋子ヴァイオリンコンサート」 北浦洋子 (ヴァイオリン)、坂本恵子 (ピアノ)	全1回 5月30日	100	140	112
「Trio Esperanza トリオで奏でる珠玉の名曲」 成希蘭 (フルート)、大本和司 (ヴァイオリン)、花井結 (ヴィオラ)	全1回 8月8日	100	140	102

(5) 講演会・公開セミナー

講座名	回数・日時	定員	応募者数	受講者数
芦屋大学図書館所蔵稀観書展 覧会関連セミナー 「西域への仏教伝来とその後の物語」	全1回 4月17日	90名	36名	36名
人権セミナー 「カルタで読み解く、暮らしの中 の人権 一家事・介護・地域活動 は誰が支えてきたのかー」	全1回 6月19日	90名	22名	22名
夏の親子ひろば「夏のおはなし 会と作ってあそぼう」※	全1回 7月18日	15組	11組	9組
平和と人権「平和の絵本カフェ・ お話し会」※	全2回(午前・午後) 8月8日	各回20名	午前 24名 午後 18名	午前 24名 午後 18名

※ 公民館では、多世代が親しみ学べる場を目指し、幅広い年代に向けた事業を企画・開催しています。特に乳幼児や低学年のお子さまと保護者を対象としたプログラム(「親

子ひろば」年2回、「絵本カフェ」年1回など）は、ボランティアグループとの協働により、地域の親子の交流や居場所づくりを目的に定期開催・随時実施しています。

（6）常設展示事業

展示名	日時
芦屋大学図書館稀覯書展覧会 第8回「シルクロードの仏教遺跡 敦煌と雲崗」	4月17日～4月23日
芦屋川カレッジ展 一般市民への「芦屋川カレッジ」の存在と魅力の広報を目的として、現役及び修了後の同期会活動、学友会活動を展示	6月7日～6月21日
平和と人権 平和の絵本パネル展 2026年夏 平和の光 絵本で灯す ※	7月26日～8月8日
芦屋大学経営教育学部バレエコース展覧会 「イタリアのバレエと歴史」	9月18日～10月10日
読書週間・こども読書週間ポスターデザイン展	10月23日～11月4日
芦屋大学図書館稀覯書展覧会 第9回「曼荼羅」	12月3日～12月15日

※200冊以上の平和に関する絵本を、「いっしょに読んで『平和』を感じる物語絵本」「0歳から100歳まで『平和』のファーストブック」「いっしょに考えたい！『平和』のこと」「みんなまるい地球で生きている」などのテーマ別に展示し、おすすめ絵本リストを配布しています。

あわせて、芦屋市在住作家による絵本や、芦屋川カレッジ33期生で元・株式会社日本著作権輸出センター社長として日本の絵本を世界へ届けた栗田明子氏の関連展示も行っています。

（7）公民館ギャラリー

「写楽会 作品展」	5月20日～5月25日
「淡遊会」	7月8日～7月13日
「老人クラブ連合会」	9月2日～9月7日
「魔法の手」	10月14日～10月19日
「芦屋郵趣会」	11月6日～11月8日
「デジイチ会」	11月11日～11月16日

「コミスク展」	11月25日～11月30日
---------	---------------

(8) 夏休み子ども教室

企画の考え方

本事業は、夏休み中の小学生に豊かな学習・体験を提供し、子どもの主体性や生涯学習への基盤を育む社会教育事業です。企画に当たっては、「中央教育審議会生涯学習分科会 今後の放課後等の教育支援の在り方に関するワーキンググループ取りまとめ（案）」などを参考に、単なる居場所づくりにとどまらず、「社会総掛かりの教育」の実現に向け、市民センター会議室を会場に以下の3方針を軸に展開します。

1. 生涯学習成果の地域還元と多世代交流：学友会社会貢献グループ、芦屋川カレッジや公民館講座等の修了生のボランティアグループの参画により、大人の知恵を次世代伝える豊かな異世代交流の場とする。
2. 地域組織・外部リソースとの協働：市民活動グループに加え、企業や専門 NPO と連携。「お寿司で学ぶ SDGs」や「AI に文字を教えよう！」など、実社会の課題や最先端技術に触れる質の高いプログラムを構築します。
3. 保護者参画と家庭教育支援：親子での読書感想文講座など保護者参画を促し、共に学ぶ喜びを通じて家庭教育を支援するとともに、持続可能な地域教育の担い手を育成します。

手法面では、作曲やさをり織り等のワークショップ、五感を使う体験・実技、ハンズオン（参加体験型）の「ランタン作り」等を取り入れ、能動的な学びの拠点として機能することを目指します。

※広報課題について；従来は市内の公立小学校全生徒にパンフレットを配布していましたが、今年度からデジタル配信「みまもるめ」に変わり、応募数が著しく減少しました。来年度から各学校にパンフレットを送付し、校内での掲示をお願いします。また市内掲示板へのポスター掲示も予定しておりますが、効果的な広報手段の検討が課題です。

講座名	募集人員	応募者数 抽選前	受講者数 ()は保護者
①お寿司で学ぶ SDGs(午前)	20	11	10(8)
②お寿司で学ぶ SDGs(午後)	20	15	14(5)
③てん刻教室「好きな一字印を作ろう」(午前)	25	18	17
④てん刻教室「好きな一字印を作ろう」(午後)	25	11	7
⑤パンのねだんのひみつ～お金から見える、社会のしくみ～	20	20	15(5)
⑥みつびしでんき科学教室「AI に文字を教えよう！」	36	18	15
⑦古代にタイムスリップ「まが玉のアクセサリ作り」(午前)	16	19	17

⑧古代にタイムスリップ「まが玉のアクセサリ作り」(午後)	16	15	12
⑨体を動かして Enjoy English !	30	28	23
⑩作曲をしてみよう！！音を並べて世界に一つの音楽を作ろう！	24	13	7
⑪読書感想文を書こう！	15 組	12 組	7 組
⑫絵手紙を書いてみよう！	16	13	9
⑬水彩画教室「ひまわりを描こう」(午前)	16	26	20
⑭水彩画教室「アクリル板を使って手を描こう」(午後)	16	12	11
⑮理科教室「光のカクテル」～LED ライトを使って、7色に変化する「ランタン」を作ろう！～	30	52	未
⑯さをり織にチャレンジ！～自分だけのテーブルマットを作ろう	20	40	未

(9) にほんごがっきゅう

講座名	回数	実績
にほんごがっきゅう	全 47 回 (含 2 回イベント) 毎週木曜日	23 名受講

公民館では、日本語学習を希望する外国人住民のニーズに対応するため、ボランティアの講師により草の根の国際交流の場を提供しています。新年会などの日本文化体験や、受講生同士が日本語で交流する「おしゃべり会」などを支援者が企画・開催しており、受講生から高い評価を得ています。

近年、新規受講希望者は増加傾向にあり、定員超過による入会待機者が発生しています。空席待ちの要望は強いものの、待機期間の長期化を回避するため、現在は空席待ちリストの受付を一時停止せざるを得ない状況にあります。

今後の課題は、一人ひとりに寄り添う質の高い支援を維持しながら、増加する受講希望者への受け入れ体制をいかに整えるかです。今後も芦屋市国際文化推進課や地域日本語教育コーディネーターと緊密に連携し、受講希望者のニーズに最大限応えられるよう努めます。

あわせて、支援の質を担保するため、ボランティアの適切な育成と確保にも注力します。単なる人員拡大にとどまらず、当教室の理念や運営方針を深く理解し、受講生に寄り添った効果的な支援を行える人材の育成に努めます。

(10) 兵庫県身体障害者社会学級事業

視覚や聴覚に障害のある義務教育修了年齢以上の人を対象とした兵庫県教育委員会の事業であり、各運営委員会に事業が委託されています。社会人として広い教養や実用的な知識・技能などを習得するとともに、交流を通して相互理解を深め、ともに生きる喜びを創造する場を提供することを目的としています。

また、効果的な学習プログラムを実施するため、関係団体との連絡・調整を行うコーディネーターを配置し、定められた分類の講座を2回以上実施します。

なお、障害のある方への広報手段が限られていることから、これまでは主に「広報あしや」での案内や「芦屋市視覚障害者福祉協会」登録者への通知を行ってきました。今年度はさらなる周知を図るため、障がい福祉課の協力のもと、芦屋市の障害福祉情報ポータルサイト「あしやねっと♪」に募集記事を掲載しました。

令和8年度 阪神青い鳥学級南支部芦屋教室の概要

対象・特徴： 芦屋市、西宮市、尼崎市に在住の視覚障害者を対象とした教室。

今年度は芦屋市が幹事市を担当。

定員： 計30人（尼崎市10人、西宮市10人、芦屋市10人）

内容：

9月17日（水） 会場：芦屋市民センター

開講式

健康講座「老若男女を問わず生活習慣病を予防するために必要な運動」

10月15日（水） 会場：バンドー神戸青少年科学館 見学会

11月5日（水） 会場：芦屋市民センター

マジックショー

コンサート「ピアノ演奏&みんなで歌おう」

閉講式

令和8年度 阪神くすの木学級 西宮教室

概要 阪神間の7市1町（芦屋市、西宮市、尼崎市、伊丹市、川西市、宝塚市、三田市、猪名川町）に在住の聴覚・言語障害者が対象の教室で、今年は西宮市が幹事。定員30人。

2. 協議事項

(1) 令和8年度 秋・冬の公民館講座、セミナー

秋の公民館講座

講座名	講師	回数・日時	定員
秋の開講記念講座 講談名作選「太閤記の世界」	旭堂南龍（講談師）	10月1日	90
田辺真人先生の「文化の歴史 Part34」 続々・芦屋の生活・文化史か ら—近世のあしや—	田辺真人（県立兵庫津ミ ュージウム名誉館長）	全6回 10月15日, 11月19日, 12月17日, 1月21日, 2月25日, 3月18日	90
世界はニュースだけでは わからない	テーマに応じ、毎月、異 なる講師をお招きしま す	全6回 10月24日, 11月14日, 12月19日, 1月16日, 2月20日, 3月20日	90
世界史講座 モンゴル帝国の実像 —「元 寇」のイメージをこえて	宮紀子（京都大学人文科 学研究所 助教）	全2回 10月16日, 11月13日	90
芦屋で暮らす講座 芦屋の空と自然をじっくり 味わう —気付かなかった素 敵な世界—	半田孝（元大阪府立高校 校長）	全2回 10月9日, 12月11日	90
サイエンス講座 宇宙のふしぎをさぐる——見 えない光と「物質」のひみつ	田中孝明、秋宗秀俊（両 先生とも甲南大学理工 学部教授）	全2回 10月31日, 11月7日	90
芦屋市立病院公開講座 「出張！糖尿病教室」	糖尿病・内分泌内科 紺屋浩之 医師	10月10日	90
芦屋市立病院公開講座 「AYA世代のがんをどう 乗り切るか」	産婦人科 上浦祥司 医師	12月12日	90

冬の公民館講座

講座名	講師	回数・日時	定員
日本史講座 (仮題) 日本仏教の歴史 —ちょっとロックな空海さん—	木下浩良(高野山大学密教文化研究所 受託研究員)	全2回 2月6日, 3月6日	90
未定	未定	未定	90
未定	未定	未定	90
芦屋市立病院公開講座 「外科疾患」	外科 野呂浩史 医師	1月9日	90
芦屋市立病院公開講座 「肝疾患について」	総合内科・消化器内科 臼井健郎 医師	2月13日	90
芦屋市立病院公開講座 「高齢者の転倒について」	リハビリテーション科 川村直生 理学療法士	3月13日	90

(2) 講演会・公開セミナー

講座名	回数・日時	定員
消費生活セミナー 化粧品広告の見極めポイント(地域経済振興課との共催)	1回 9月14日	60
家庭教育セミナー「片付けても散らかる」を卒業しよう！ (芦屋市PTA協議会との共催)	1回 9月26日	90
絵本ひろば「おひざで絵本とわらべうた」	1回 9月26日	20
小さな絵本の読み聞かせ会	1回 11月2日	10組
芦屋で暮らすセミナー (仮題) なぜ分別や減量が必要なのか」	1回 11月6日	90
絵本ひろば「おひざで絵本とわらべうた」	1回 9月26日	20
芦屋大学図書館所蔵稀観書展覧 会関連セミナー「曼荼羅」	1回 12月3日	90

平和セミナー(仮題) 青い目の人 形の朗読 (映像付き)	1回 12月5日	90
---------------------------------	----------	----

(3) 公民館音楽会

講座名	回数・日時	定員
「ディベルティメント・イタリアーナ! 楽しさあふれるバレエと音楽の午後」 芦屋大学経営教育学部バレエコース、藤井真理子 (バレエ)、菰あつこ (お話)、川内昌典 (チェロ)、益盛秀子 (ピアノ)	10月3日 1回	100
「歌曲とピアノ (仮題)」 鹿岡めぐみ (ソプラノ)、田中一花 (ピアノ)	3月27日 1回	100

* 芦屋市在住、出身者を中心とした、若手からベテランまでの演奏家、バレエダンサーにより、多様なジャンルの音楽の鑑賞機会を設けます。アーティストのトークを交えてコミュニケーションを図り親しみやすい場、新たな文化を育む可能性に満ちた活気ある場となることを目指しています。